

形の機能を捉えさせる指導の工夫

～中核となる4つの手立てを通して～

尾道市立栗原北小学校

1 第1学年「B図形」における見方・考え方

小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説算数編では、第1学年「B図形」における見方・考え方について、身の回りにあるものの形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けさせることができるよう指導することが掲げられている。

箱の形は平らなところがあるが、ボールの形は平らなところがないといった立体の形状を捉えることや筒の形は置き方によって、転がりやすくなったり、重ねて積み上げることができたりする形であること、また、ボールの形は転がりやすい形であること、箱の形は、重ねて積み上げることができる形であることなどの機能的な性質についても指導する。

本実践では、前述の学習内容を踏まえ、本実践で身に付けさせたい力を以下のようなことに重きをおき、指導を試みた。

2 実践例

- (1) 研究主題 形の機能を捉えさせる指導の工夫
- (2) 仮説「かたちあそび」の授業づくりにおいて、「中核となる4つの手立て」を講じることで、本実践で働かせたい見方・考え方を働かせることができるであろう。
- (3) 実践事例

第1学年 「かたちあそび」

形の機能を捉えさせるための中核となる4つの手立て

- ① 教材・教具の工夫 (色, 形 統一)
- ② 課題設定の工夫 (高いタワーと低いタワーをつくる)
- ③ 活動設定 (はてなボックス)
- ④ ペアでの対話活動の設定

3 成果と課題

- 4つの手立てが有効に機能し、ねらいを概ね達成できた。特に教材・教具を揃えることで、着目させたい機能を捉えさせることができた。
- ▲ プレ・ポストテスト等によって、児童の見方・考え方の変化を数値として細かく見取ることができなかった。
- ▲ 図形領域での指導において、「どこ？」という発問などによって、児童が捉えた形の機能と特徴を結び付けるような指導することをより意識する必要があった。

4 おわりに

図形領域では、図形の機能を捉えさせるためには、実際に具体物に触れる活動と課題がいかに重要であるかを再認識できた。

【参考文献】

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説算数編』